

⑮【複数年度(2年目)】官民連携による富士山南麓地域におけるサイクルツーリズム環境創出社会実験(静岡県富士市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ サイクルツーリズムによる地域活性化への効果の評価手法の構築、評価を検証する。
- ・ 自転車関連施策の効果を「見える化」する方法を検討しており、取組事例も少ないため、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

2. 実験内容、実験結果

- ① レンタサイクル、バッテリーStの実装
⇒ レンタサイクル、バッテリーStの取組みの有効性を確認
- ② 案内誘導・注意喚起サインやバイシクルピットの設置
⇒ 案内誘導サインの標示位置及び標示内容はわかりやすく、サイン設置の有効性を確認
- ③ 駅間のシェアサイクル及び、サイクルトレインと駅を起点としたレンタサイクルの実装
⇒ コネクトサイクル、サイクルトレインの有効性を確認
- ④ レンタサイクルの実装や官民連携によるサイクルツアー等によるサイクルツーリズムの効果検証
⇒ 経済波及効果は、レンタサイクルで85,000千円/年、コネクトサイクルで27,000千円/年と算出



コネクトサイクルの実施状況



サイクルトレインの実施状況

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
社会実験では、コネクトサイクルの潜在的利用者を発見することが必要である。	コネクトサイクルでは、どのような方が利用するのか、使いたいと思っているのか、コネクトサイクルでどのような動きが発生するのかを検証する。
富士山をテーマとした通年型の自転車練習会の開催が有効的と考える。	富士山をテーマとした通年型の自転車練習会の開催を今後、検討する。
レンタサイクルは、場所にあった自転車を選択した方が良い。	場所にあった自転車の車種を今後、検討する。
富士市では、恵まれた環境下でサイクルスポーツができることを積極的に情報発信するとともに、幅広い層を対象とした練習会の開催が有効的と考える。	今後、自転車愛好家や外国人観光客に向け、富士市では、恵まれた環境下でサイクルスポーツができることを積極的に情報発信・上級者を対象とした練習会だけでなく、ビンディングペダルや輪行バックの使い方など、初心者を意識した練習会の開催を検討する。

⑱【複数年度(2年目)】官民連携による富士山南麓地域におけるサイクルツーリズム環境創出社会実験(静岡県富士市)

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
道の駅富士川楽座における利用者の増加	市内にある3つのレンタサイクル拠点の連携や道の駅富士川楽座の単独により、定期的にライドイベントを開催していく。
外国人観光客への対応	今後の取組みでは、多くの外国人観光客に利用して頂くため、SNSを活用し、富士山、駿河湾、新幹線の写真をセットで、外国人にPRを実施していく。
バッテリーStの適切な配置	本市では、バッテリー消費の激しい富士登山、野田山登山のモデルコースがあるため、そのコース上にある施設と調整を図りながら、配置の検討を行う。
自転車走行空間における案内標示の設置	自転車走行空間ネットワーク整備計画では、安全に自転車が走行できる環境を検討するだけでなく、観光客が迷わずに利用できる様、案内サインをする。

5. 今後のスケジュール

- R6年度 富士川楽座におけるイベントの開催、サイクルトレイン活用方法の検討
- R7年度 多種のバッテリーの準備、コネクトサイクル事業の採算性の検討、岳南電車でのサイクルトレインの実施
- R8年度 バッテリーStの本格実施、コネクトサイクルの周知方法・外国人観光客への対応の検討
- R9年度 岳南電車以外の路線でのサイクルトレインの実施、サイクルツアーの開催
- R10年度 コネクトサイクルの本格実施

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 長距離移動や坂道が連続する場所を持つ地域において、バッテリーStを設置することが有効的であると考えられる。
- ・ バッテリーStは、施設単体では運営資金を確保することが困難であるため、まちの駅等の民間施設との連携により、運営を行うことが必要である。
- ・ 様々な電動アシスト付き自転車があるため、バッテリーStには、可能な限りの種類のバッテリーを準備していくことで、多くの利用者の不安感を解消していくことが必要である。